

本郷中学校の ESD 活動

<活動の概要>

・当校は、「認め合い、かかわり合いながら、仲間とともに成長する生徒の育成 ～「この子」がいきる生徒指導を通して～」を研修主題として取り組んでいる。その中で ESD を生徒の主体的な活動と捉え、ESD の実践を通して自主的に活動する力の育成を目標とした。具体的には、生徒会活動、委員会活動、各学年の総合的な学習に関連させ、①環境にかかわる活動、②地域にかかわる教育、③防災にかかわる学習を行っている。

・活動の実際

① 環境にかかわる活動（全校生徒）

生徒会執行部が中心となり、全校生徒が意識でき、そして2030年まで継続して取り組むことが可能な目標として「本郷中生 17の目標」を掲げるとともに「HON5 SDGs」を設定している。生徒会執行部はSDGsへの関心を高めつつ、持続可能な社会を創る一員として、身近でできることから取り組んでいこうという意欲を高めている。

美化委員会が発信源となってボランティアを募り、課外時間に学校内でふだん清掃が行き届かない場所の清掃を行う活動として「お掃除し隊」を行っている（年2回1時間弱の活動）。ボランティアにも関わらず、毎年多くの生徒が参加する継続的な活動となっている。



② 地域にかかわる教育（全校生徒・地域）

「アクト本郷」という活動を行っている。生徒の発案による、「学校・地域をよりよくするための活動の実現」を達成するものである。具体的には、学校外の活動として、地域の清掃を全校生徒によびかけ、自主的なボランティア活動として実施している。今年度は、校区の人とのかかわりを増やしたいという生徒の思いから高師緑地公園の清掃活動を計画している。毎年200人に近い生徒が地域のために汗を流している。

③ 防災にかかわる学習（1年生）



1年生の総合的な学習では、数年前から防災に関する学習を実施している。大きな地震が起こった際、自分たちの地域がどうになってしまうのか、近くを流れる梅田川の状態や避難場所がどのように設置、開設されるのかなど、仲間とともに学習を進めた。11月には市の防災危機管理課の方に来ていただき、起震車による地震体験と避難所の作成、毛布で人が運ぶ方法などを体験することができた。